

北海道大学日本語研修コースにおける「日本事情」授業¹

小林 ミ ナ

1. はじめに

北海道大学留学生センター日本語研修コース(=以下、研修コース)では、6ヶ月間(週30時間×18週間)の日本語予備教育プログラムを実施している。週30時間の授業の内訳は、「日本語」の授業29時間と「日本事情」の授業1時間である。

本稿では、これまで5年間(10学期)にわたって実施してきた「日本事情」の内容を報告、検討することにより、研修コースの「日本事情」が扱うべき情報の内容を考察する²。

2. 北大研修コースにおける「日本事情」授業

2. 1. 時間的位置づけ

北海道大学の研修コースでは、大学院研究留学生(国費大使館推薦)、教員研修留学生あわせて30名の学生定員に対して、未習者2クラス、既習者1クラスの計3クラスを設けている。「日本語」の授業は、未習者クラスと既習者クラスでは内容が異なるが、「日本事情」では、3クラスの学生が一堂に会して同じ講義を受ける(講義は英語か簡単な日本語で行われる)。例えば、1998年4月期の3クラスの時間割は、図1のようであった。(網掛け部分が「日本事情」授業。)

図1：研修コースの週スケジュール

曜日	月			火			水			木			金		
	未1	未2	既	未1	未2	既	未1	未2	既	未1	未2	既	未1	未2	既
クラス	未1	未2	既	未1	未2	既	未1	未2	既	未1	未2	既	未1	未2	既
I	文法	文法	文法	文法	文法	文法	文法	文法	文法	文法	文法	文法	文法	文法	文法
II															
III			漢字												漢字
IV	LL	会話	会話	会話	会話	会話	LL	会話	会話	会話	会話	会話	作文	作文	作文
V	漢字						漢字						読解		
VI						LL					LL		日本事情		

※授業はそれぞれ50分間。III校時とIV校時の間に1時間の昼休みがある。

※未1、未2はそれぞれ未習者対象クラスを、既は既習者対象クラスをあらわす。既習者対象クラスの時間割は、受け入れた学生の日本語レベルにより学期ごとに若干の変動がある。

また、図1の週スケジュールの前後には、それぞれ図2の行事がある。

図2：週スケジュール前後の行事

第0週	第1日目	入学式、クラス分け作業（プレイスメント・テスト、インタビュー）、日本語授業に関するオリエンテーション
	第2日目	生活指導に関するオリエンテーション
第19週	修了式	

2. 2. トピック

研修コースで「日本事情」が開講されるようになったのは1994年度4月期からで、これまでの5年間（10学期）には次のような講義が実施されてきた。

図3：「日本事情」の講義題目

年度	月期	講義題目 / 時間数	月期	講義題目 / 時間数
1994	4	保健・健康管理 / 2 歯について（歯科治療の実際）/ 1 キャッシュディスペンサーの使い方 / 1 日本の教育 / 2 アパート、家族の呼び寄せ / 1 日本の科学技術 / 1 日本語ワープロ / 6	10	保健・健康管理 / 1 歯について（歯科治療の実際）/ 1 キャッシュディスペンサーの使い方 / 1 日本の教育 / 1 アパート、家族の呼び寄せ / 1 日本の文化・習慣 / 2 日本の科学技術 / 1 日本語ワープロ / 7
1995	4	保健・健康管理 / 1 歯について（歯科治療の実際）/ 1 日本の教育 / 1 日本の文化・習慣 / 1 日本の科学技術 / 1 北海道の文化 / 4 日本の政治・経済 / 2 日本語ワープロ / 6	10	保健・健康管理 / 1 歯について（歯科治療の実際）/ 1 日本の教育 / 1 アパート、家族の呼び寄せ / 1 北海道大学の概要 / 1 日本の文化 / 1 北海道の文化 / 2 日本の政治・経済 / 1 日本の科学技術 / 1 日本語ワープロ / 6
1996	4	保健・健康管理 / 1 歯について（歯科治療の実際）/ 1 日本の教育 / 1 アパート、家族の呼び寄せ / 1 日本の文化・習慣 / 1 日本の科学技術 / 1 北海道の地理 / 1 北海道大学の概要 / 1 日本の社会 / 1 日本語ワープロ / 6	10	保健・健康管理 / 1 歯について（歯科治療の実際）/ 1 日本の教育 / 1 アパート、家族の呼び寄せ / 1 日本の文化・習慣 / 1 日本の科学技術 / 1 北海道の地理 / 1 北海道大学の概要 / 1 日本の社会 / 1 日本語ワープロ / 6

1997	4	保健・健康管理 / 1 日本の教育 / 1 札幌での生活の適応 / 1 日本の文化・習慣 / 1 日本の科学技術 / 1 北海道の地理 / 1 北海道大学の概要 / 1 日本の社会 / 1 日本語ワープロ / 6	10	保健・健康管理 / 1 日本の教育 / 1 札幌での生活の適応 / 1 アパート、家族の呼び寄せ / 1 日本の文化・習慣 / 1 日本の科学技術 / 1 北海道の地理 / 1 北海道大学の概要 / 1 日本の社会 / 1 留学生センターと北海道の大学事情 / 1 日本語ワープロ / 6
1998	4	保健・健康管理 / 1 札幌での生活の適応 / 1 日本の住宅事情 / 1 日本の教育 / 1 日本の文化・習慣 / 1 日本の芸術 / 1 日本の経済 / 1 日本の科学技術 / 1 留学生センターと北海道の大学事情 / 1 北海道大学の概要 / 1 北海道の地理 / 1 日本語ワープロ / 6	10	保健・健康管理 / 1 札幌での生活の適応 / 1 日本の教育 / 2 日本の文化・習慣 / 1 日本の芸術 / 1 日本の経済 / 1 日本の科学技術 / 1 留学生センターと北海道の大学事情 / 1 北海道大学の概要 / 1 北海道の地理 / 1 日本語ワープロ / 6

このうち、「保健・健康管理」は医学部教官（内科医師）に講義を依頼している。また、「日本語ワープロ」は97年度まで工学部教官に講義を依頼していたが、現在は日本語教官が担当している。その他の講義は、センター長を含む留学生センターの日本語教育部、留学生指導部、短期留学部（98年度より）の教官が分担して行っている。つまり学生は、異なる教官によるさまざまなトピックの授業を週替わりで受講するのである。

「日本事情」の開講目的は、「北海道、東北地区の大学で研究生生活を送る上で必要な、日本文化、日本社会等に関する情報を得る」¹¹⁾である。そして、その講義題目や授業でとりあげる具体的なトピックは、開講当時（1994年4月期）から現在に至るまで、さまざまなマイナーチェンジがはかられてきた。その背景には、センター教官の離着任といった外在的な理由もあるが、「コース評価」で学生から得られたコメント（3. 2. で後述）や前学期の反省を踏まえた教官からの要望を取り入れた部分も少なからずみられる。そして、このような、いわば必要に迫られてのボトムアップ的な改編作業の結果からは、研修コースの「日本事情」の授業が扱うべき情報の量と質が見えてくる可能性がある。

3. 講義題目の検討

3. 1. 講義題目の分類

ここで、「日本事情」の講義題目を、期待される情報の質という観点からとらえなおしてみる。(紙幅の都合上、以下では1998年度4月期の講義題目に限って議論をすすめる。)すると、「保健・健康管理」や「札幌での生活の適応」といった「進学先大学を含めた北海道地区^{IV}で日常生活を送るために有益な情報」、「留学生センターと北海道の大学事情」や「日本語ワープロ」といった「研究生活を送る上で有益な知識や技術」、「日本の芸術」や「日本の経済」といった「日本に関する一般的知識」といったカテゴリーに分類することができる。

以上をまとめたものが図4である。

図4：講義題目の分類

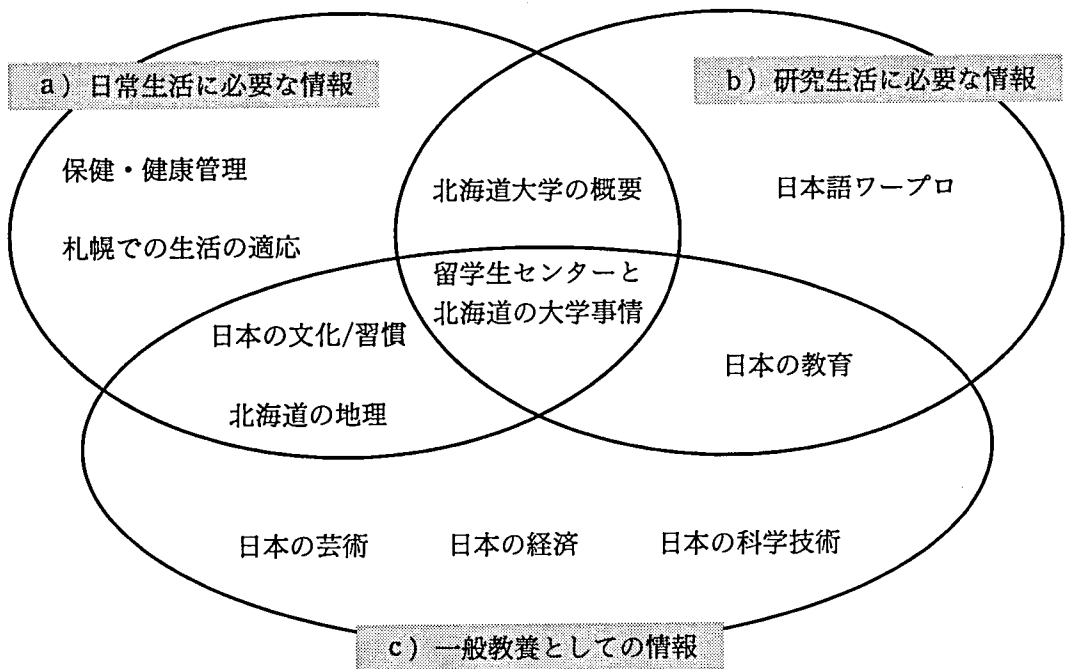


図4から、例えば「北海道大学の概要」という講義が「日常生活に必要な情報」であると同時に「研究生活に必要な情報」であるように、いくつかの講義は複数の要素をあわせて持っていることがわかる。

3. 2. 「コース評価」で得られた学生からのコメント

研修コースでは、6カ月のコース終了時に、教材や教師の教え方、6ヶ月/1週間/1日のスケジュールなどについて、無記名のアンケート形式で学生に意見を求める「コース評価」を実施している。その中の自由記述欄で、学生から得られたコメントを以下に記す。

(1994年4月期～1998年4月期までの9学期分で得られた記述式のうち、内容に関する全回答を記す。この他に“good”だけの回答が多数みられた)

1. 入管規則、銀行についての講義がもっと必要である。
2. 外国人が日常生活で直面しやすい問題とその解決方法についての講義があったほうがよい。
3. 指導教官や研究室の同僚と友好的な関係を維持していくための助言があるといい。
4. アイヌ民族等、北海道の歴史についても学びたかった。
5. 日本の歴史について、もっと学びたかった。
6. Flower-Arrangements、Paper-dollを教えてくださいませんか。(原文のまま)
7. 日本文化について大変興味があるので、もっと時間数を増やしてほしい。
8. (授業を)月に1回程度にして、1回の時間をもっと長くしたほうがよい。そして、講義を聴いた後で、学生同士でディスカッションをしたい。
9. 講義だけでなく推薦図書の紹介があれば、(興味をもったテーマについて)その後自分で理解を深められる。
10. 日本の習慣と文化についてもっと深い講義を聴きたかった。

※原文は6.を除きいずれも英文。和訳は筆者。

これらのコメントは、次の3点を示唆している。

- ・実用面では、日常生活や研究室場面といった学生の日常に即した、より具体的な情報が求められている(回答1、2、3より)。
- ・生け花などの日本文化や北海道の歴史や関するニーズがある(回答4、5、6より)。
- ・講義だけでなく、参考図書の紹介やディスカッションなど、自らで問題を掘り下げているような授業が求められている(回答7、8、9、10より)。

4. 考察

ここでは、3. 1. の講義題目の分類(図4)、および、3. 2. の学生からのコメントを踏まえて、「日本事情」が扱うべき情報の量と質を関連領域との関わりから考察する。

4. 1. a) 日常生活に必要な情報

「a) 日常生活に必要な情報」は、研究留学生に限らず在日外国人一般の問題と深く関わる。この領域について、「日本事情」で優先的にとりあげる情報を選ぶのには、①来日後に知っておくべき緊急性の高い情報か、②学生自身が地域でのネットワークを通じて個人で情報収集が可能か、といった観点があげられるだろう。

①でいえば、北海道地区の気候風土の問題がある。研究留学生には、温暖な気候の国か

ら来るものが多く、また、「北海道が日本の最も北に位置している」という知識は漠然とはもっていても、現実感が伴っていない場合も多い。96年10月期に来日した中には、オリエンテーションで「(スキーの) ジャンプ台があるということはここには雪が降るのか」と驚いていた学生もいた。もちろん、これには当事者である学生と受け入れ側である私たちの情報の受信/発信の方法で改善すべき点も多いが、マスコミなどを通じて世界に向けて発信される日本の情報が、東京や大阪を中心としたものが多いことを、意識しておく必要がある。

また②については、受け入れ学生数がますます増加することにより、進学先大学も弘前を含めた北海道地区に広がってきた。そこで今後は、進学先大学の地域の広がりに対応するための、地域を対象とした情報収集が必要になる。

そしてこの領域については、研修コースの授業だけではなく、留学生指導部が担当するオリエンテーション(図2:第0週第2日目)の内容との兼ね合いも考慮に入れる必要があるだろう。

4. 2. b) 研究生生活に必要な情報

「b) 研究生生活に必要な情報」は、日本語ワープロなどほぼすべての学生が必要とする情報を除けば、進学先の環境によって必要な情報が異なる。この点では、進学先で学生たちがどのような環境におかれ、また、どのような困難を感じているかについてを知らなければならぬ。より効率的なカリキュラムをめざすには、追跡調査、言語環境調査が今後必要である。

4. 3. c) 一般教養としての情報

研究留学生の留学目的は、言うまでもなく、専門領域について研究を行い、学位を取得することにある。そして、「日本事情」授業についても、「北海道、東北地区の大学で研究生生活を送る上で必要な、日本文化、日本社会等に関する情報を得る」という日本事情の開講目的(pp.79、下線筆者)のもとに、これまでは「必要な」という、いわば実利的な側面に重点をおいて講義題目を決定してきた。

しかし、学生からのコメントをみると、それとともに「アイヌ民族」、「北海道の歴史」、「生け花」など、必要性というより、むしろ一般的知識としての日本文化に関する講義のニーズがあることがうかがえた(回答4、5、6より)。北海道地区の大学への留学を通じて、単に自己の専門分野を深めるだけでなく、日本あるいは北海道についても、知識や理解を深めたいという学生の希望がくみ取れる。

5. まとめ

これまで10学期にわたって行ってきた「日本事情」の内容と、それに対する学生からのコメントを通じて、「日本事情」で扱う情報について検討してきた。そして、「a) 日常生活に必要な情報」、「b) 研究生活に必要な情報」とともに、「c) 一般教養としての情報」に対するニーズがあることを指摘した。

a) や b) の情報は、地域や進学先の環境、オリエンテーションとの連携を指摘したように、これらの知識を得る機会は「日本事情」授業以外にもあるだろう。翻って、c) を考えると、大学院研究留学生である彼らには、予備教育修了後に地域の行事など単発的なあるいは体験型イベントに参加する機会はあっても、日本や日本文化に関する体系的なプログラムが用意されることはほとんどない。研究留学の成功を、単なる学位取得に限らず、日本の良き理解者を育てることに目を向けて捉えるなら、留学生を対象とする日本文化に関する専門家からの講義をより充実させることは、研修コースのプログラムが目指すべき一つの方向を示しているのではないだろうか。

謝辞：本稿の内容は、中村重穂助教授（北海道大学留学生センター）との議論に負うところが大きい。ここに記して謝意を表します。

参考文献

因京子他1999「大学院レベルの日本語教育に求められるもの—日本語の到達度は何を示すのか」『日本語教育』99号、日本語教育学会、pp.120-130

-
- i 本稿の内容は、1998年3月24日に広島大学留学生センター講演・討論会「マルチメディアと日本事情」で行った口頭発表に、大幅に加筆・修正をしたものである。
 - ii 本稿での議論は、あくまで日本語予備教育としての「日本語研修コース」における「日本事情」授業に関するものであり、いわゆる「日本事情」全般を包括するものではない。
 - iii 『北海道大学留学生センター年報』第7号、pp.34
 - iv 修了生の進学先は、主に北海道内の国公立・私立大学だが、教員研修生については、弘前大学、宮城教育大学への進学者も受け入れることがある。